

2014年度 アジアパワーリフティング選手権大会

写真・文：団長、山口 真人

写真：吉田進

「出発」

ゴールデンウィークの大型連休。毎年恒例のアジアパワーの季節です。

今年の開催地はフィリピン。マニラ市のお隣のケソン市にて。(2014年4月26-5月1日)

昨年の子女子のアジアパワーとアジアクラシックベンチが既に開催されたのもあったからでしょうか、事前の手続き等、とてもスムーズ。

日本から直行便で4時間程度。日系の航空会社なので楽チン。

夕方に離陸してその日の夜には到着。時差も1時間。

着陸時に垣間見たマニラの夜景はとても立派な大都会。

入国審査もほとんど「どうぞ、お入りください」

昨年、イランで開催されたアジアパワーは日本を出国してから UAE のドバイ経由でテヘランに。入国手続きもなんだか緊張を強いられ、さらに同日の乗り換えで開催地アフヴァーズに着くまで大袈裟でもなく丸1日掛かったので今まで過去のどの渡航を顧みても「これは楽だぞ！」とほくそ笑んでいました。

着いた時にはどっぷりと陽は暮れてましたがインド程でないが、やはり暑い！

迎えが来てなくて「大丈夫か？」と一瞬思いましたが「きっと他の国も同日に来訪しているので行ったり来たりで大変なんだろう？ここは暫し待とう」と。



アジア選手権、ベストリフター、団体、優秀な成績を取めた日本選手団



1時間近く後にやっと合流。
そして車に乗りホテルに直行！と行きたいところだったが、そこは噂に聞こえた交通渋滞。ここまで凄いとは。これぞフィリピン！

さらに夜中に近い時間にも関わらず子供たちも街に繰り出している。

ドライバーが先を急いで大通りを避け狭い道を車間距離もギリギリで。

いきなり垣間見えたのは大都市マニラの裏側の姿。

洗濯物がそのまま干してあったり道端で埃に塗れた裸の子供が寝そべっている。

過去、インドでは考えられない渋滞もスラムの光景もいくらかも見た事もあるのでそれほど驚きもしなかったが、さっきまで東京でよそ行きで小奇麗な子供たちを見ていたので、このギャップには正直、複雑な思いも。

これがアジア！

これも来てみないと眼にする事もない光景ですね。

そんなこんなでたっぷり時間を費やしてホテルに到着した時は日付が変わってました。そのホテルで宿泊と試合も行われます。

ホテルはそれほど新しくはないが大通り沿いですぐ近くにマクドナルドや通りの向かいに大きなデパート、24時間のドラッグストア（コンビニ）もあり便利。

なんだかんだ、疲れて到着した初日は皆、おとなしく就寝。

「2日目・街に繰り出してみた」

朝になると特に時間を決めていたわけではなかったが1Fのコーヒーショップに各々が参集。

話題は「冷房がキツ過ぎる」「カーテンが壊れて…」
「部屋が暗くて…」

皆、細かな部屋の不満を訴えたがその手のものは「やがて慣れるよ」と言うしかなかった。

朝食も「これからコレが続くのか…」と思うと少し憂鬱になる感じだったが。

それも含めて日本選手団に出来るだけ便宜を図るのも団長の務め、と主催者であるエディー・トーレスの顔を見つけてあれやこれや。

エディーは日本選手団には出来るだけフィリピンの滞在を楽しんでもらおうと気を配ってくれている。こんなに笑顔の素敵なヤツだったけ？

この日は夜に「テクニカルミーティング」が執り行われるのみで特に公式な行事はない。買い物好きな日本人の事を理解していて「SMメガモール」というフィリピンで1番大きい巨大モールに行く事を薦められた。

早速、タクシーを呼んでもらおうとフロントに。

「本来は80ペソで充分ですが気に入ったらチップ



山田選手の力強いスクワット

を合わせて100ペソ払ってください」

全員でタクシーに。

早速、運ちゃんが「人数が多いので200ペソ」と。

きたきた、これぞアジア！

もちろん払うワケない。言い包める。

そしてその目的地。

昨夜、道すがら見たスラムの光景とは全く真逆なエアコンがよく効いた超近代的で清潔な巨大モール。お国柄なんだろうか、サイケな模様やビタミンカラーが多いみたい。育ちの良い日本人？にはちょっと。大阪のオバちゃん的な印象。行き来している人々はきっとお金持ちばかりなんだろうなあ。

これもフィリピン！

少し歩き疲れたお歴々の年輩組はホテルへ。

まだ散策したいちょっと若輩組はさらに見物を。

選手団にとってはちょうど良い足慣らしになった…と思う。

「2日目・テクニカルミーティング」

今回のアジアパワーはいつも大選手団を送り込んでくるイラン、インド、カザフスタンをはじめとする5か国がドーピング問題で不参加。

それに相まっていつも運営側として骨を折ってくれていた方々が見られなくなってしまっているのはとても寂しい気もするが、それでもそんな状況だからこそさらに支えていこう！とする方々の情熱がヒシヒシと伝わってくる。

特にフィリピンの運営周りの方々は本当はいろいろと大変なんだろうけど皆、なんだか嬉しそうだ。

テクニカルミーティングが始まった。

最初は各国の選手の出場の是非の確認。

残念ながらエントリーしながら来ない国も。

それでも10か国が参加する事に。

その後いつも恒例？の台湾のエリカ嬢が技術委員長の香港のイップ女史に嘸み付き出した。

最初こそ英語で。

やがて興奮したふたりの共通語の北京語も。

さらにイップ女史、怒りにまかせて広東語で捲し立てる。

もうお互いの話など聞いてもいない。

罵り合いだとしか思えない口論だが中華圏の方々は割と普通なのかも。

さすがに北京語以降は理解不能だったが、どうやら国際審判の試験の問題と事前エントリーの行き違いの事のようなのだが、おかげでピリッとして今までの友好ムードが一変、「国際試合だぞ！」と思知らされる。

そのまま終われば良かったのだがイップ女史は技術委員長を辞任されてしまった。

アララ。

そのテクニカルミーティングが終わった後に日本選手団のミーティング。

各自のセコンドの割り振りとそれぞれの役割分担など。

大学にパワーリフティング部を作り、国際経験を積む、寺門選手



申し合わせたのは「失格は絶対に避けよう」「重量申請も安全に」など。
いよいよ明日からアジアパワーが始まる。

「試合初日」

今回のアジアパワーは IPF の視察でエマニュエル・シェーバー事務局長が来訪。

午前 10 時の予定通りに開会式が執り行われる。

今までのアジア大会では、それこそ開会式に命を懸けている？くらい、ダンスやら余興など繰り広げられたのだが、あれ？どっかの王様も地元の名士もご挨拶もない。あっさりしたもの。

ちょっと拍子抜けしたがおかげで時間通り試合が開始されることに。

初日のこの日は女子の全階級。

日本からはマスターズ II の 57kg に札幌の山田珠美さんがアジアパワー初出場。

山田さんはそもそもパワーリフ
昨年、秋の世界マスターズが国際試
今回、エントリー締め切りギリ
と駆け込み出場を果たした。

その山田さん。コスチューム
本を携えて。

しかも超上級者向きなタイタン社
メインのセコンドだった山口（私）
皆さん、色んな方がいますけど国
持ってきましょうね。結局、セコン
した。

今回の試合会場もホテル内でアッ
ただし、最初に発表されていた開
当日発表。

それに併せてアップも順調に重ねて
だとエディーが駆け込んで来た時に
みだった。



ティングを始めたのも最近だそうで
合初出場。

ギリ当日に「まだ間に合いますか？」

チェックでスクワットのラップ、1

のゴールドラップがほとんど新品。

も「こりゃ、困ったなあ…」

際試合には最低でも予備のラップは
ド判断で山口のアイアンラップを通

プ会場もすぐ近く。

始時間よりも 2 時間早く行われると

いるとアップ会場に当初の時間通り
は山田さんの最後のアップを残すの

アジア大会ばかりか国際大会ではあつては困る事だがよくある事。

この件は細かく触れないが昨夜のテクニカルミーティングが尾を引いていた。

そこは「条件は同じだし、エントリーがひとりだけだから」と落ち着かせる。

しかし 2 時間は大きい。山田さん、スーツ着たままお菓子を食べてお歴々とお喋り。

「もうちょっと試合に集中して」と言っではみたものの…

こういった事が起こった時には前向きに考えるかしかない。

さらに試合のグループ分けで第 2 グループになっていたのだが当初はグループとグループに「3 分間」インターバルと言われていたものがなく試技開始に。

そのグループの第 1 試技者だった山田さんは既にラップを巻く時間もなく慌てふためいたが、こういった事も起こるのが国際試合。文句を言っても時計は動く。大切な試技を 1 本捨ててしまった。これは明らかにセコンドのせい。

それでクヨクヨしないのが山田さん。その後は安全運転を無事完了。

もう少し攻められたはずなの！と悔やんだが立派なアジアチャンピオンの誕生だ。

「試合2日目」

午前中のセッション第1グループに男子ジュニア 59kg に寺門隆太が会場。

父親も数々の国際試合に出場している有名選手でパワーリフティングの親子鷹。

人懐っこい性格で日本選手団のマスコット?的な存在。

アジアパワーは2010年のモンゴル・ウランバートル大会にも出場。

ところが緊張もあってか動きも固い。絶対の自信を持っていたベンチでの種目別の金メダルを目指してシャツを替えて臨むも惜しくも挙げられず。

最後のデッドも少しでも良い色のメダルを目指したが相手に引かれ総合で3位。

いつもの力が発揮できなかったようで少し気落ちしていたが、それでもアジアの3位。胸を張ろう!

ベンチ以降はどうか「ハンガーノッキング現象(要するに腹ペコ)」になってしまったようで本人も意識朦朧としてよく覚えていなかったようだ。

寺門君はまだお子ちゃま、なのか日本のスナック菓子を大量に持ち込んで試合中にも食べていたが、次回はもう少し効果的な栄養補給食を持参するようにしましょう!

ちなみにそのお菓子をシェーバー氏に差し上げたところ「サンキュー」と言いつつも、じ~とそのお菓子の包みを見つめて微妙な表情だった。

このグループのM IVに香港の名物おじさんのボクさんが会場。

いろいろと話題のイップ女史からセコンドがいないので頼むと一昨日懇願された。随分と勝手だな、と思いはしたがこれもアジア大会。ボクさんおめでとう!

幸い寺門は基本的にはラップ自巻きなのでやりくりが出来た。

ボクさんをやり終えて寺門の3本目を巻け寺門も立ってくれたので良かった。

午前中の第2グループに男子オープン 59kg に谷内政公が会場。

普段は富山で後に出場する小川などとトレーニングを磨き上げてきた。

今回が全くの国際試合初出場。

59kg には長身なので減量も苦しかっただろう。

その谷内も当初は第1グループと発表されてアップを実施。

最後のアップを残すのみ、となったところ「第2グループに変更」と告げられる。

スーツも脱ぐこともなくじっと耐える。

これも国際試合。

スクワットはもっと攻めたかったようだが国内試合よりも高さに厳しい。

サブトータルでは30kg 負けていたがデッドで一気にその差を詰め3本目を自身の2.5kg アップだけで固く引き、台湾の選手に逆転を狙ったデッドを引かせず総合3位。初出場でもメダル獲得。

午後のセッションは共に男子マスターズII 66kg



初出場、初メダル獲得の谷内選手

に丹羽弘典と中村英明。

過去に世界マスターズパワーやアジアパワーで数々の輝かしい戦績を残してきた丹羽と今回がフルギアのアジアパワーは初出場の中村。

丹羽は昨年のアジアパワーの失格のリベンジをと、中村は国際大会で少しでも力を発揮したいと共に意気軒高だ。丹羽は貫禄のスクワット。

本来はアップの時のような重さのはずだが、昨年の失格を目の当たりにしたので嫌味っらしく「重量を下げて」と懇願。

その通りに無難に3本とも成功させてくれた。

一方の中村もスクワット3本成功で幸先の良い立ち上がり。

ふたりともラップは自巻きなのでセコンドとしてはまさに本人任せで。

一生懸命にラップを巻いたのに失敗試技だとセコンドもガッカリするのだが…

こういう時は本人のペースを大事にしてあげる事。

丹羽は割とせっかちなので早めに準備を。

中村は初出場だが落ち着いてセコンドの指示を聞いている。

丹羽がベンチの1本目を成功した時点でほぼアジアチャンピオンが確定。

あとは得意のデッドで積み重ねるはず。

中村は少し悔いが残ったか？

シャツの相性が悪く1本目を確実に取るためにノーギアで。

2本目と3本目にシャツを着用したが押しきれなかった。

そしてデッドに突入。

丹羽は難なく1本目を引き名実ともにアジアチャンピオンが確定。

中村も1本目を引き、なんと2位を確保。



このクラス、丹羽選手に続いて2位となった中村選手



昨年のリベンジを果たし優勝をゲットした丹羽選手

その後は自信满满だった丹羽のデッドも肩の返りが厳しく取られるなど国際試合の洗礼はあったが。丹羽は密かにフォーミュラー上位獲得も狙っていたので残念があった。確かに国内試合に比べてデッドの判定は厳しい。「そんなはずはない」と言いたいところだが要はちゃんと肩を返せばいい、という事。ともかく日本人選手が4名出た試合2日目が無事に終わった。

「試合3日目」

この日の午前のセッションに男子マスターズⅣの74kgに大澤充が出場。

大澤は不思議な人だ。こう言っては失礼だが街中でお見掛けしても彼がパワーリフターだとは誰も思わないだろう。ひょうひょうとして、しかしいざパワーとなると物凄い力を発揮する。事実、アジアパワーばかりか世界マスターズでもほとんどがチャンピオンを獲得している。あの風貌で常人では考えられない重量をさりげなく。今回も大澤にとっては散歩にでも出かけたくらいなものかも。セコンドの連絡ミスでスクワットを一本捨てたり、ベンチも1本目を落としたりしたが決して慌てない。試合中の集中は素晴らしく、普段のいつもの独り言を何度も繰り返す癖もない。当然のようにアジアチャンピオンがその手に。

午後のセッションは日本選手団の最大のヤマ場。男子83kgの同じグループになんと3名が出場。

年代順ではマスターズⅡに山口真人、マスターズⅢに北野利雄、マスターズⅣに木下哲哉。セコンド陣も総動員体制。

マスターズⅡの山口。

アップは絶好調。全く軽い。ところが。こういう時の本番試技はいつも危ない。



パワーとなると凄い力を発揮する、M4、大澤選手

団長を務めた山口選手、アジア記録を連発！



共にウエイト愛好家時代のなごりの力任せのフォームや、つい高重量をやりたがる癖などのトレーニングばかりか大好きなお酒を控えるように等、いつも厳しく指摘され続けるなど本来は通らなくともよかったはずの険しい道を自ら歩んできた。

普段は74kgに出場しているが、常にモンスター大澤の後塵を拝してきた。

国内でも海外でも…

そこで一大奮起。

そのモンスターを避け83kgに鞍替え。増量には苦労したが。

これも戦術。姑息と言われようが結果が全て。

運の良い事にエントリーも他にいなく記録を残せばチャンピオンになれる。

ところが過去のアジア記録を覗き見るとさらにモチベーションが上がる。

実際にスクワットを除く全てのアジア記録を更新したばかりか確実に9試技を成功させるなど人生のピークを迎えた気分だろう。

ともあれこの日の出場の日選手4名は全てアジアチャンピオンに輝く。

好事魔多し。その通りになった。

スクワット1本目でやらなくてもいいのに2段挙げ。

その後もなんとも慎重な試技ばかり。

ベンチとデッドのアジア記録を辛うじて塗り替えなんとか面目を保ったが。

マスターズⅢの北野。

60歳を越えてから本格的にパワーに参戦。数々の栄光をその手に。

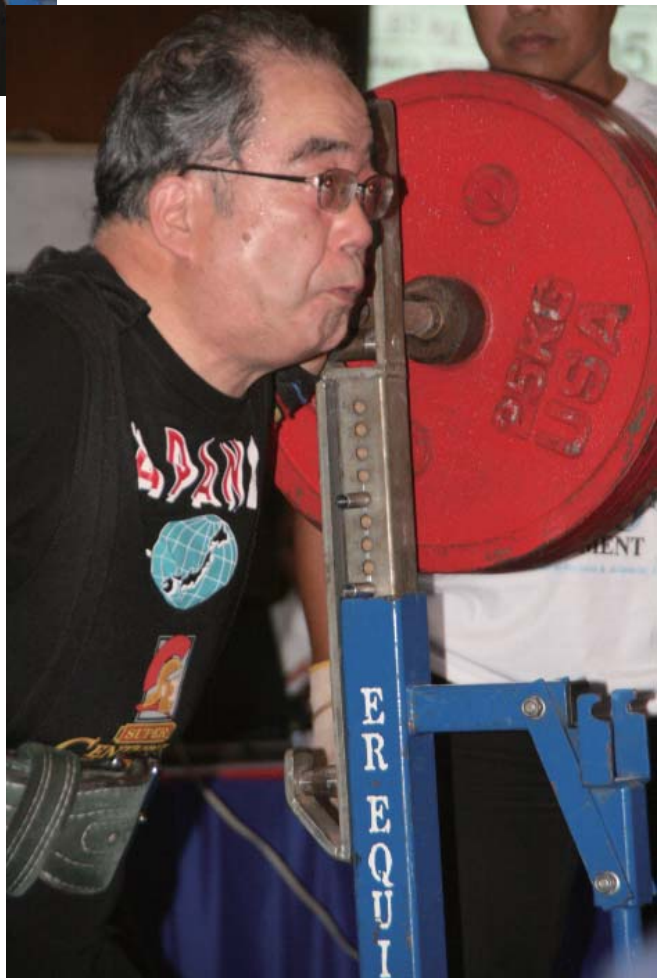
なんとその北野。

前日に質の悪い虫に刺されたとかでスパーリング後のボクサーのように眼の周りを赤く腫らしている。なんとも災難だ。

過去には失格も多かったのでセコンド陣からアップ時点ではスクワットの高さやベンチのスタート時の肘の伸びなど問題を指摘されていたが結果的には600kgを超えるなど健在ぶりを見せた。

マスターズⅣの木下。

長らくウエイトトレーニング愛好家だったが67歳からパワーリフティングに出会いその後、アジア大会参加は3回目。練習はいつも団長の山口と行動を



60歳を越えてから本格的にパワー開始、まだまだ、伸びるぞ北野選手

「試合 4 日目」

この日は日本人選手の最後で唯一、小川光寿がマスターズ I の 93kg に出場。

本来は 83kg が主戦場だが増量。

いろんな戦術上、そうしたのだが大きな要因は 83kg ではいつもキルギスタンの選手が出場。そこで今回は 93kg に腹回りもたっぷり。

ところが結果的にキルギスタンは不参加。

「あら？」と思っていたら小川は運に恵まれる。

ノミネーションで遙か先を行っていたウズベキスタンの選手が出場しない。

結果的に香港の新人と一騎打ちになった。

香港の新人は普段はウエイトリフター。

強いのか、そうでないのか未知数。

しかし小川は固く固く重量を申請。結果的にそれが功を奏じた。

最後のデッドでは 230kg を引いた小川を上回る為に 235kg を引かれたか、に見えたが煽りを取られてアジアチャンピオンが小川に転がり込んだ。

本来の力ではもっと楽勝だったはずだが国際試合で勝つ事は薄氷を踏む思いだ。

ちなみにこのグループで香港のオープンの橘井選手のセコンドも山口は担当。

苦手のスクワットを潜り抜け記録狙いの 247.5kg のベンチだったが惜しくも。

同じグループで同時に 2 人のアジアチャンピオンに関わる貴重な経験をした。

「最後の 1 日・タガイタイ観光」

日本人選手が誰も出場しないこの日。

事前に準備して小旅行に。





残念ながら北野さんは虫刺されの腫れで辞退。

谷内さんと寺門君の若いふたりはさらなる国際交流を求めて別行動。(ちなみに健全な交流です)

そんなんで主力部隊7名で。

朝の約束の時間にロビーに集合するとフロントに1本の電話が。

ガイドさんから「もうひとつの同じ名前のホテルと間違えた」と何とも間抜けな言い訳。「これだよ」と少し立腹したが、その後のエージェントの対応や日本の代理店も一生懸命。1時間は遅れる事を覚悟したが幸いこの日はメーデー。休日なので渋滞もなし。程なく本当の集合場所に。



バスも人数の割に結構くつろげる大きさ。ガイドのアウさん(女性)は日本語も達者。旦那様がタイの外交官というセレブ。実は上品なおば様だった。

ほとんど渋滞もないままマニラを後に高速道路に。

しかしほとんどトヨタ、トヨタ、トヨタ。

話を聞くと日本の車メーカーの顧客管理は凄まじくアウさんもホンダから自動車学校の費用を出して貰いライセンスを取って、その後に車を買ったそう。

まもなく都会の喧騒を離れ高級感漂う雰囲気のある街並みに。

途中、行きすがら沿道にはフルーツを売ってる沢山の出店が。

バスを止め買ってその場で食べる。

パイナップルが思い出すだけでヨダレが出て来るほど甘くて果汁が豊富。

食べた事もなかったマンゴスチンやジャックフルーツ、ペリカンマンゴー…

どれも美味しく、しかも安い！

目的地のタイガタイはマニラから2時間程。

イメージとしては箱根の芦ノ湖のようなカルデラ湖(何倍も大きい)と軽井沢の高級感を併せ持ったリゾート。

かつてマルコス大統領が別荘としていた景勝地からは雄大な眺め。

別荘地かと思いきや日本人でもマンションならば安易に買えて暮らす事が出来るのだそう。綺麗で洗練されセキュリティも確保され病院も完備して…

一瞬の夢をめぐらす。

お昼にバイクを。

泊まっているホテルも朝昼晩とバイクだがほとんど中華料理。

ところがこのバイクにメンバー皆が貪る。

なにかもが美味しい！

ホテルの食事に辟易していたのだろう。

搾りたてのオレンジジュースは何杯おかわりした事だろう。
帰りにマニラの世界遺産を含めた歴史的地区に。
スペイン統治時代の栄光の歴史が目当たりに。
少しお土産を買いたいので寄ったお店も安い。
なんとなく行くまでは皆が乗り気でなかった旅だったみたいだが、ずっとホテルに缶詰め状態だったので、おかげですっかり開放されて笑顔が絶えなかった。
良い旅だった。
帰ると最後の行事。

「バンケット」

香港がさっさと帰ってしまっているのが少し気がかりだったが。
お国柄なのか毎回のバンケットに比べ飲めや歌えはなし。
事前にお子ちゃまの女子たち3人が年齢不相応なパワフルなボーカルを披露した以外は特に。
やがてチーム&フォーミュラー表彰に。
ざっと。

(個人受賞)

山田珠美：MⅡベストリフター 小川光寿：MⅠベストリフター 山口真人：MⅡベストリフター
北野利雄：MⅢベストリフター 大澤 充：MⅣベストリフター

(チーム表彰)

女子MⅡ 1位 男子MⅠ 2位 男子MⅡ 1位 男子MⅢ 2位 男子MⅣ 1位

マスターズでは圧倒的な強さをアジアに示した。

日本選手は誰ひとり失格者がなく参加した全員がメダルを獲得した。

その後は相まみれての写真撮影。

楽しかった。

今回の大会では各部屋でWi-Fiが拾えず自然とホテルのロビーに各国の輩たちが参集。

ついでにホテルの入り口の敷地には野外にサロンがあり毎夜ビールを飲もうとささやかな宴会が繰り広げられた。お酒がダメな人やボクはコーラで。フィリピンの夜はうだるような暑さ。そんな事はおかまいなしに、それにも負けなような熱い語らいが。言葉なんかどうでもいい。もうみんな身振り手振り。

楽しいものだ。

アジア大会の良さはなんだろう？

ボクらの隣人たちを知る事。そして隣人たちが日本をどう見ているか？これはいつも発見ばかり。

そして他のどの大会にもない事。

それは男女、年代も一緒になって試合が行われる事。サブジュニアもジュニアもオープンもマスターズも。

その誰もが皆の共通の話題は？

人種や政治や宗教や紛争でない。

「パワーリフティング」

そう、それだけ。

それだけでビール何杯もイける？

来年もまたきっと自然発生的にこの様なサロンが生まれ皆で語りたいものだ。

再びアジアの友が集うことを願う。

そして何より日本の若い選手たちこそ、この貴重な体験を共有して欲しいと心から願う。

また会いましょう！





アップ場でききなり、デッドリフト講習会。先生は、74kg級、優勝、Lung-Hsin Huang (台湾)。Lung 選手の記録は、290-215-317.5

もう30年も前の話だが、台湾が、パワーリフティングを始めるにあたって、高松の中尾氏、吉田進そして私にパワー講習会をしてほしいと、頼んで来た。その時、デッドでは、膝を割ることいかに大切か、という指導をした。中尾氏は、スモウスタイルの見本のようなデッドリフトをされていた。その後、それが進化し、台湾デッドの誕生となったようだ。台湾では、パワーリフティングを始めたいという選手に、まず、相撲の股割りならぬ、デッドリフトの股割りを教えるそうだ。膝を割って、できるだけ上体を立てる。壁に股を割って、体を密着させそのまま、立つ。そのような、感じの指導をしているそうだ。

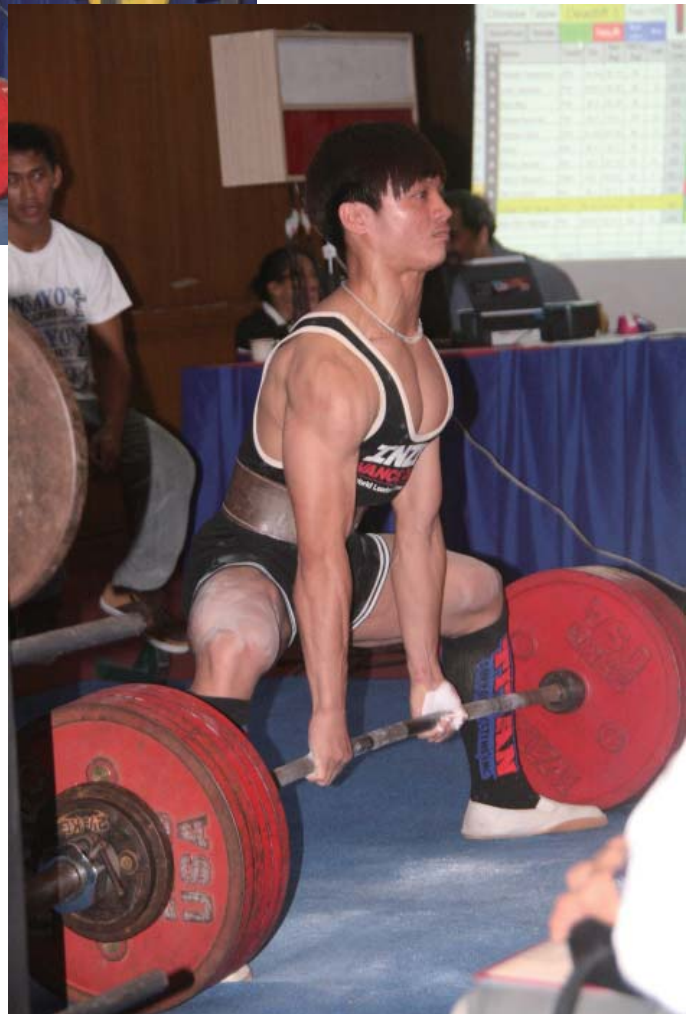


そのような指導から生まれた、Chung-Chin Cheng。1996年生まれの18歳。(写真右)デッドリフトでは、66kg級で290kgに成功。将来の世界チャンピオン?!

写真上のインドネシアの選手、Awangも同じようなテクニック。59kg級、デッドリフトは、265kgに成功。

写真中のように、体型によって、多少の違いは、あるものの、Lung 選手の指導が行き届いているようで、その選手のできる限りの「股割り」効果が、現れている。

今回は、出発一週間前に膝を故障した世界チャンピオン、Tsung-Ting Hsieh は、スクワットで、失格してしまったが、Tsung 選手に続く、若手選手が台湾では、着実に育っているようだ。



(このページの報告、吉田寿子)

アジア大会に参加して

審判員、吉田寿子

2014年アジア選手権がフィリピンのケソン市で行われた。吉田進はアジア連盟会長兼審判として、私は事務局補佐兼審判として参加した。

今年から、IPF国際審判員の筆記試験は、ネットで行われることになった。その第一回目が、今回のアジア大会での試験となった。

私もその試験に立ち会ってみたが、なかなか、スムーズとは言えなかった。私が、付き添った受験者は、順調に試験をこなし、30問までいったところで、突然、コンピュータが止まってしまった。慌てて、コンピュータを復旧させてもらったが、既に終わった30問の回答は消えて、また、1からの試験となった。2時間の試験時間のうちの30分が無駄になってしまった。とにかく、やるしかない、と、最後まで終えて、終了ボタンを押すと、点数が出てきて、その場で、合否が解る。幸い、その受験者は、85点で、ギリギリ合格。

何よりも、コンピュータ環境がきちんと整っていないと、国際審判試験実施はむづかしいと感じた。

アジアでは、技術委員長である、香港のイップ女史が計画をたて、IPFの審判担当者に、何日の何時から何時まで試験をネットで公開するよう連絡をしていた。ただ、イップ女史は、大切な仕事が中国であったので、試験日を一日だけと限定し、合計10名の試験をするので、と、香港から10台のコンピュータを持ってきていた。だが、イップ女史は、事前に主催者へ何も連絡をしていなかったため、10台を同時に動かす部屋が用意されていなかった。激怒するイップ女史、それなら連絡くらいして欲しかった、と、イップ女史を責めるフィリピン。仕方ないので、宿泊者の部屋を借りて、一人ずつ試験をしたのだが、最後の順番に回された台湾は、深夜1時30分まで試験をすることになり、試合をその朝迎える選手もおり、とても、集中できるような状況ではなかった、と、IPFに再試験を訴えた。

また、大会3日前になって、イップ女史が、大会の日程や時間変更を、フィリピン側に訴えていたが、フィリピン側は、既に選手は、飛行機の手配を終えているので、今更、日程変更をすると、大会に参加できない選手も出てくると、イップ女史の提案を断った。これについて、こんな、マイナーな変更も認められないなら、技術委員長をする意味がない、と、辞意を示していたイップ女史は、言葉通り、審判の筆記試験を終えた時点で、技術委員長を辞任して、帰国してしまった。

試験のやり方に納得のいかない台湾。試験に落ちてクレームをつけると、怒るイップ女史。山口団長の報告にあった、テクニカルミーティングのギクシャクは、このような事情によるものだった。

どうやって、試合をする？

技術委員長が辞任して、帰国してしまった後、誰が、審判で、選手はだれか、何も情報が残されていない。

不安で、早朝、試合会場に早めに入ると、壁に、時間割と審判の役割分担が貼られていた。イップ女史が最後の仕事として、残して行ってくれたようだ。だが、記録カードや、コスチュームチェック表その他選手名簿もない。そこで、フィリピンの役員を早朝だったが、起こして、試合に必要な書類をプリントしてもらい、なんとか、初日の検量に間に合った。

ほっとしたのも、つかの間、第二セッションでは、検量を終えた時点で、問題発生。

なんと、壁に貼ってあった時間割は、イップ女史が大会3日前に提案し、フィリピン側が断ったその「イップ女史案」だったのだ。そんなことを知らない、役割に当たった、主審や陪審員は、テクニカルミーティングで、発表された時間割とどうして違うのだろう、と、思いながらも、表示時間通りに、検量やコスチュームチェックを済ませると、フィリピンの選手が何人も検量室にやってきて、どうして、検量時間を早めた、と、オオモメになる。そこで、フィリピン協会とアジア連盟が協議、IPFのエマニュエルも立ちあって、既に、終わった検量は、有効として、試合開始時間を遅らせることになった。

このような、混乱で、山口団長から報告のあった、日本の山田選手も、アップのやり直しをしなければならないことになってしまった。

もう一つ第一グループと第二グループが変わったという山口団長の報告についての事情は、検量を終えたウズベキスタンの主審がグループ分けをして、第一グループと第二グループを発表した。その際に、始めのグループに一般男子が入っていたため、台湾から「一般男子」は常に後面に入れるべきだ、と、いう意見が出され、最もだ、と、アジア連盟が判断して、グループが入れ替わった。この影響で、日本選手も不都合な思いをすることになり、大変、申し訳ないことになってしまった。

一日目の夜、アジア会議が開かれ、IPFのエマニュエル氏も出席し、規約や、選挙前の残り一年間の新役員が決まった。イップ女史が辞任してしまったので、私が技術委員長として、台湾のチャオ女史と連携して、一年間を務めることになった。次期、技術委員長として、チャオが独り立ちできるように、サポートするのが私の役割だろう。

2015年のアジア選手権では、向こう4年間の新役員を決める選挙があるので、日本からも、ぜひ、アジアへの役員を出していただきたいと、希望したい。

今回は、突然の技術委員長指名で、準備が何もできていなかったもので、色々、選手にも迷惑をかけてしまった。二度と、このような事態が起らないよう、チャオ女史と連絡を取り合って、アジア連盟がスムーズに動くよう、あと一年、頑張りたいと思っている。

とにも、かくにも、IPFの監視の元（事務局長、エマニュエル氏）、今年のアジア大会が実施された。遅延エントリーは全て拒否、当日のクラス変更もちろん拒否。コスチュームチェックは、エマニュエルの監視の元、IPFルール通り。5本指の靴は、エマニュエルによって、却下（靴下は関係ないと思うが、この時は、却下していた）。スーツや、シャツの縮め方で問題のあるものは、全て却下。それなら、と、ノーギア出場を決めたインドネシア選手。縫い方をその場で指導して、1時間かけて縫い直したフィリピンの選手。日本選手も、肩紐を縫いつけていた選手がいたが、これを取り外すことで、OK。エマニュエルが帰国後どのように、IPFに報告したかは、分からないが、台湾の再試験をIPFに訴えてくれて、再試験がかなったことを考えると、まあ、IPFもアジアのやり方に、納得をしてもらえたのではないだろうか。と、楽観的に考えている。

さて、9/11-14は、キルギスタンで、アジアベンチ。12/7-14はオセアニアと合同で、クラシックパワー&ベンチ。一年間の技術委員長の仕事と、これをチャオ女史に伝えるという大役を全うしなければ、と、緊張気味。今年は、世界選手権に行って、IPFルールをもう一度、しっかり学び直したいと、思っている。



つかの間の観光を楽しむ、日本選手団